

比爪館跡

第28次・第29次発掘調査報告書

平成25年3月

紫波町教育委員会

比爪館跡

第28次・第29次発掘調査報告書

平成25年3月

紫波町教育委員会

例　　言

1 本書は、岩手県紫波郡紫波町南日詰字箱清水地内に所在する、比爪館跡（岩手県遺跡地名表記LE77-0087）第28次調査・第29次調査（I区・II区・III区）についての、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査に関する報告書である。

2 調査要項

・第28次調査

調査事由 公共下水道汚水管渠管路施設工事のため。

調査期間 平成21年6月19日～平成21年6月23日 調査面積 30.4m²

・第29次調査（I・II区）

調査事由 公共下水道汚水管渠及び水道管の設置工事のため。

調査期間 平成23年9月26日～平成23年10月19日 調査面積 72.0m²

・第29次調査（III区）

調査事由 公共下水道汚水管渠公共ます設置工事のため。

調査期間 平成24年5月7日～平成24年5月23日 調査面積 73.9m²

3 調査主体 紫波町教育委員会（教育長 川村秀彦）

調査組織 紫波町教育委員会生涯学習課

	年度	課長	室長	調査担当者	報告書執筆
第28次調査	21	花籠 博文	須川 範一	花籠 博文・米川 保丈	花籠・米川
第29次調査	23	作山 孝洋	須川 範一	花籠 博文・鈴木 賢治	花籠・鈴木
	24	高橋 正	谷地 和也	花籠 博文・鈴木 賢治	花籠・鈴木

尚、平成23年度の室内整理作業は、鈴木賢治・大畠佳菜子（紫波歴史・文化調査会文化財調査員）が担当し、本書の編集は花籠博文と鈴木賢治が協議して行った。

4 本報告書の作成にあたっては下記の方にご指導、ご協力いただいた。（敬称略）

羽柴直人（岩手県立博物館 専門学芸員）、文化財調査事業企業組合（座標測量、平面実測）
似内啓邦（盛岡市教育委員会）

5 土層図は、堆積の状態を重視し線の太さを使い分けた。土層の色相觀察は、小山・竹原著「新版標準土色帖」日本色研事業（株）を使用した。

6 本書に記載した地形図は、国土地理院発行の2万5千分の1日詰を使用した。

7 各遺構名と遺構記号は次の通り。

遺構名	溝跡	井戸跡	土坑	柱穴	その他
記号	SD	SE	SK	SP	SX

8 座標数値 基一1 X=-51605.976m Y=28307.333m

9 調査で得られた一切の資料、出土遺物・撮影写真・遺構実測図・遺物実測図は紫波町教育委員会において保管している。

10 現場作業員及び室内整理作業員は、次の方々に参加・協力して頂いた。

箱崎一男・熊谷正男・藤原求・八重樫ひとみ・稲垣淳子・伊藤綾華・吉田満子・加藤英佐子・水本由香里・藤原まゆみ・篠田和恵・小田中千晶・小澤功子

目 次

例 言

目 次

本文目次

表 目 次

挿図目次

写真図版

抄 錄

◎表目次

表1	周辺の遺跡一覧表	2
表2	比爪館跡調査次数一覧表	4
表3	第28次調査各遺構の埋土注記表	9
表4	第29次調査I区・II区各遺構の埋土注記表	12
表5	I区出土遺物一覧表	17
表6	第29次調査III区 各遺構の埋土注記表	22
表7	III区出土遺物一覧表	25

◎挿図目次

第1図	比爪館跡位置図(1:50,000)	1
第2図	周辺の遺跡位置図(1:10,000)	3
第3図	比爪館跡調査区域図(1:1,500)	5
第4図	第28次調査区全体図	6
第5図	SK-177 土坑跡、SD-045～SD-047 溝跡	8
第6図	SD-046 溝跡 出土遺物	8
第7図	第29次調査I区・II区全体図	10
第8図	SK-178・SK-179 土坑跡、SE-036 井戸跡、 SX-013 焼土遺構、SP-01～SP-11 柱穴	13
第9図	SK-178・SK-179 土坑跡 出土遺物	15
第10図	SE-036 井戸跡 出土遺物	16
第11図	第29次調査III区 全体図	19
第12図	SD-048～SD-051 溝跡	23
第13図	SE-037 井戸跡、SP-01～SP-12 柱穴	24
第14図	III区 出土遺物	26

◎写真図版

第1図版	第28次調査区全景、各トレチ全景
第2図版	第28次調査区 土坑跡、溝跡、全景、出土遺物
第3図版	第29次調査I区・II区 全景、土坑跡、断面
第4図版	第29次調査I区 井戸跡、焼土遺構、全景、断面
第5図版	第29次調査III区 調査区全景、溝跡、断面
第6図版	第29次調査III区 溝跡、井戸跡全景、断面、出土遺物
第7図版	第29次調査I区・II区 出土遺物①
第8図版	第29次調査I区 出土遺物②
第9図版	第29次調査III区 出土遺物

◎本文目次

1 遺跡の環境

(1) 位置	1
(2) 地形と地質	1
(3) 周辺の遺跡	2

2 調査の概要

(1) 過去の調査	4
(2) 調査に至る経過	5
(3) 第28次・第29次(I区～III区) の調査概要	6

3 第28次調査

(1) 検出遺構、出土遺物	7
(2) 調査のまとめ	9

4 第29次調査I区・II区

(1) 検出遺構	11
(2) 出土遺物	14
(3) 調査のまとめ	18

5 第29次調査III区

(1) 検出遺構	20
(2) 出土遺物	25
(3) 調査のまとめ	27

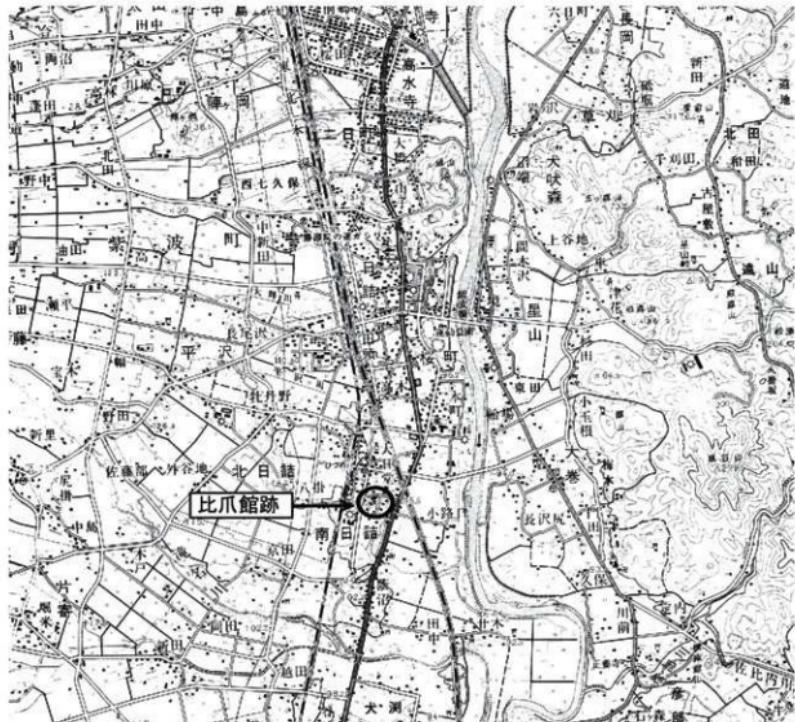
1 遺跡の環境

(1) 位 置

本遺跡は、JR 東北線日詰駅の南東約 500m、岩手県紫波郡紫波町南日詰字箱清水地内の中位花巻段丘相当面上に位置する。遺跡範囲は南北約 340m、東西約 320m と推定される。

(2) 地形と地質

本遺跡の東側約 900m には、紫波町の中央を縱断するように北上川が南流している。町内における平地は、西側一帯は奥羽山脈から流れ出て北上川に注ぐ淹名川・大坪川・五内川等の中小河川群によつて、広く扇状地や氾濫低地が形成されており、そこに顯著に段丘面が形成されている。また、北上川の東部においては、北上高地の丘陵群との間に陥隘な段丘が形成されるのみである。これら北上川中流域西側の扇状地性段丘は、西根段丘・村崎野段丘・金ヶ崎段丘と大きく三分類されるが、紫波町内では相当するものとして、石鳥谷段丘・二枚橋段丘（花巻段丘相当）・都南段丘と命名された段丘群が知られている。



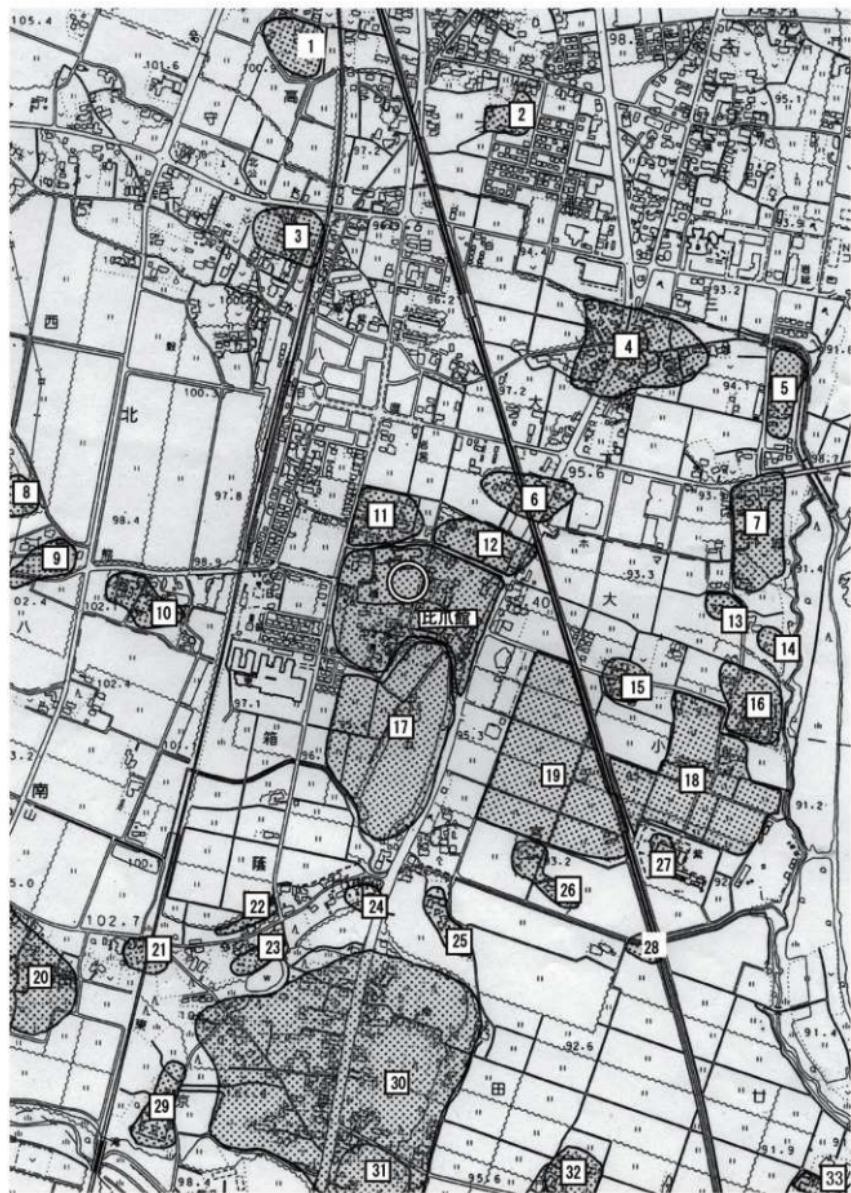
第 1 図 比爪館跡位置図 (1:50,000)

(3) 周辺の遺跡

当遺跡の北に北日詰東ノ坊遺跡、東に南日詰小路口遺跡、南に南日詰遺跡などが所在する。また、紫波町内には県指定文化財である川原毛瓦窯跡、町指定文化財である高水寺城跡、陣ヶ岡陣営跡など貴重な遺跡が多く存在する。

次数	遺跡名	住所地	種別	遺構・遺物
1	桜町田頭	桜町字田頭、字高木	散布地	土師器、須恵器
2	才土地	桜町字才土地	集落跡	竪穴住居跡、掘立柱建物跡 土師器、須恵器
3	北日詰下藪	北日詰字下藪	散布地	土師器
4	大日堂	北日詰字大日堂	集落跡	かわらけ
5	北日詰城内Ⅱ	北日詰字城内	集落跡	竪穴住居跡、縄文土器
6	北日詰東ノ坊Ⅱ	北日詰字東ノ坊、下東ノ坊	散布地	土師器、かわらけ
7	北条館	北日詰字城内	城館跡	土師器
8	北日詰外谷地Ⅳ	北日詰字外谷地	散布地	石器
9	北日詰外谷地Ⅴ	北日詰字外谷地	散布地	土師器、陶器
10	北日詰八卦	北日詰字八卦	散布地	土師器、須恵器
11	北日詰東ノ坊Ⅰ	北日詰字東ノ坊	散布地	土師器、須恵器、かわらけ
12	北日詰東ノ坊Ⅲ	北日詰字東ノ坊	散布地	かわらけ
13	北日詰東ノ坊	北日詰字東ノ坊、城内	散布地	土師器、白磁
14	北日詰城内Ⅰ	北日詰字城内	散布地	土師器、須恵器
15	南日詰大銀Ⅰ	南日詰字大銀、小路口	散布地	土師器、かわらけ
16	南日詰大銀Ⅱ	北日詰字城内、南日詰字大銀	散布地	土師器、須恵器
17	五郎沼(北爪館)	南日詰字箱清水	散布地	縄文土器、かわらけ
18	南日詰小路口Ⅰ	南日詰字小路口	散布地	土師器、かわらけ
19	南日詰小路口Ⅱ	南日詰字小路口	散布地	土師器、かわらけ
20	南日詰京田Ⅰ	南日詰字京田	散布地	縄文土器、土師器
21	南日詰京田Ⅱ	南日詰字京田	散布地	土師器、須恵器
22	南日詰蔭沼Ⅰ	南日詰字蔭沼	散布地	土師器
23	南日詰蔭沼Ⅱ	南日詰字蔭沼	散布地	土師器
24	伝蛇塚	南日詰字箱清水	散布地	珠州系壺
25	南日詰田中Ⅰ	南日詰字田中	散布地	須恵器
26	南日詰宮崎	南日詰字宮崎	散布地	土師器
27	南日詰小路口Ⅲ	南日詰字小路口	散布地	土師器、かわらけ
28	南日詰田中Ⅱ	南日詰字田中	散布地	土師器
29	南日詰京田Ⅲ	南日詰字京田	散布地	土師器
30	南日詰	南日詰字蔭沼、京田、滝名川、田中	散布地	縄文土器、土師器、かわらけ
31	伝善知鳥館	南日詰字滝名川	城館跡	空堀、土塁、柵列、縄文土器
32	南日詰滝名川Ⅴ	南日詰字滝名川	散布地	縄文土器
33	南日詰八坂	南日詰字八坂	散布地	須恵器

表1 周辺の遺跡一覧表



第2図 周辺の遺跡位置図 (1 : 10,000)

2 調査の概要

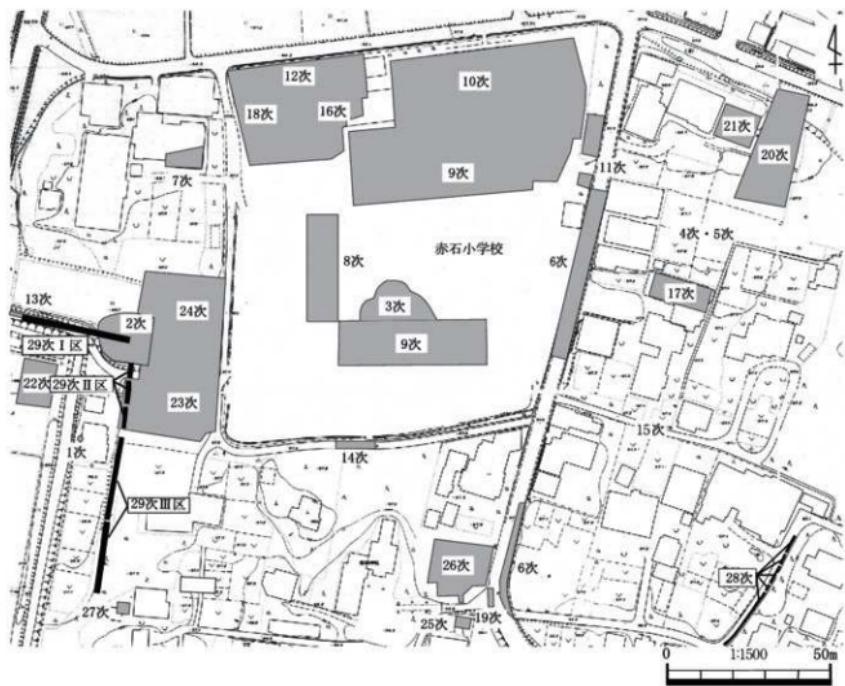
(1) 過去の調査

当遺跡は、奥州藤原氏の一族比爪氏の居館跡として周知の所である。考古学的な調査は、1965年の板橋源氏（岩手大学）の発掘調査を始まりとし、第1次調査から第5次調査まで実施している。その後、紫波町教育委員会が主体となり、遺跡の範囲確認調査や開発行為に伴う緊急発掘調査及び試掘調査を、第27次調査まで継続して調査を実施している。

これまでに検出された遺構は、掘立柱建物跡 23 棟、竪穴住居跡 69 棟、土坑 176 基、溝跡 44 条、井戸跡 35 基、陥し穴 27 基、焼土遺構・その他 12 基、柱穴多数などである。

次数	住所地	調査原因	面積	期間	検出遺構
第1	紫波町南日詰箱清水地内(赤石小学校内)	学術調査	230m ²	S40.11.18 ~ 11.21	掘立柱建物跡 2、竪穴住居跡 2、土坑 2
第2		校庭整備	500m ²	S47.7.20 ~ 7.29	掘立柱建物跡 1、竪穴住居跡 2、溝跡 4
第3	紫波町南日詰箱清水地内(赤石小学校内)	学術調査	55m ²	S49.11.6 ~ 11.20	竪穴住居跡 2、土坑 1
第4	紫波町南日詰箱清水163地内		63m ²	S50.11.10 ~ 11.18	
第5	紫波町南日詰箱清水160-2地内				
第6	紫波町南日詰箱清水169-6地内	町道改良	370m ²	S57.7.12 ~ 9.7	竪穴住居跡 3、土坑 9、溝跡 6、井戸跡 1
第7	紫波町南日詰箱清水地内(赤石小学校内)	校舎建設	356m ²	S60	掘立柱建物跡 3、竪穴住居跡 3、土坑 6、溝跡 7、井戸跡 2
第8	紫波町南日詰箱清水地内(赤石小学校内)	校舎建設	355m ²	S62	掘立柱建物跡 2、竪穴住居跡 1、土坑 3、溝跡 2、井戸跡 2、陥し穴 5
第9			2,060m ²	S63.5.16 ~ 12.10	掘立柱建物跡 9、竪穴住居跡 38
第10	紫波町南日詰箱清水地内(赤石小学校内)	校舎建設	2,100m ²	H1.3.29 ~ 12.12	土坑 60、溝跡 6（大溝 1）、井戸跡 2、陥し穴 5、焼土遺構 10 基
第11	紫波町南日詰箱清水地内(赤石小学校内)		76m ²	H2.5.27 ~ 6.30	竪穴住居跡 2、土坑 5、溝跡 3、陥し穴 1
第12	紫波町南日詰箱清水地内(赤石小学校内)	校舎建設	465m ²	H2.5.27 ~ 6.30	竪穴住居跡 2、陥し穴 2
第13	紫波町南日詰箱清水540-4地内	範囲確認	36m ²	H3.9.24 ~ 9.30	(*29次調査と重複)
第14	紫波町南日詰箱清水540-1地内		350m ²	H3	なし。（試掘調査）
第15	紫波町南日詰箱清水地内		350m ²	H4	なし。（試掘調査）
第16	紫波町南日詰箱清水地内(赤石小学校内)	校舎建設	415m ²	H4.6.4 ~ 7.28	竪穴住居跡 3、土坑 15、井戸跡 2、陥し穴 1
第17	紫波町南日詰箱清水164-2番地内	倉庫建設	167m ²	H5	溝跡 2
第18	紫波町南日詰箱清水地内(赤石小学校内)	校舎建設	255m ²	H6.9.15 ~ 10.22	土坑 9、溝跡 2、井戸跡 1
第19	紫波町南日詰箱清水164-4番地内		15m ²	H6	溝跡 1
第20	紫波町南日詰箱清水160-1番地内	宅地造成	525m ²	H8	土坑 13（*大溝 1）
第21	紫波町南日詰箱清水161-2地内	個人住宅	123m ²	H9	柱穴（近世）
第22	紫波町南日詰箱清水12-3地内	個人住宅	94m ²	H9	井戸跡 1（*大溝 1）
第23	紫波町南日詰箱清水地内(赤石小学校内)	校舎建設	807m ²	H11	掘立柱建物跡 6、竪穴住居跡 4
第24	紫波町南日詰箱清水地内(赤石小学校内)	校舎建設	702m ²	H12	土坑 45、溝跡 9、井戸跡 7、陥し穴 6、その他 2
第25	紫波町南日詰箱清水190-2番地内	校舎建設	20m ²	H15.5.9 ~ 5.14	竪穴住居跡 2、土坑 1
第26	紫波町南日詰箱清水169-4地内	集会所建設	216m ²	H16.9.13 ~ 11.12	竪穴住居跡 4、土坑 6、溝跡 3、焼土遺構 1 基
第27	紫波町南日詰箱清水187-1地内	倉庫建設	28m ²	H21.4.27 ~ 5.19	竪穴住居跡 1、土坑 1、井戸跡 1

表2 比爪館跡調査次数一覧表



第3図 比爪館跡調査区域図

(2) 調査に至る経過

紫波町公共下水道事業に伴う記録保存を目的とした調査である。協議等の経過は次のとおり。

第28次発掘調査

平成21年6月16日付け、紫波町建設部下水道課長から比爪館跡地内にかかる下水道污水管渠公共ます設置工事について協議があった。

平成21年6月17日、紫波町教育委員会が試掘調査を実施。調査の結果、遺構が確認されたため建設部下水道課と協議し、平成21年6月19日より発掘調査に入った。

第29次（I・II区）発掘調査

平成23年7月22日付け、紫波町建設部下水道課長から比爪館跡地内にかかる公共下水道污水管渠（9028線）管路施設工事について協議があった。

平成23年9月26日から同年10月31日までの予定で道路通行制限許可を得、平成23年9月26日から発掘調査を開始した。

第29次（III区）発掘調査

平成24年4月18日付け、箱崎武氏から文化財保護法第93条第1項による埋蔵文化財発掘届の提出があり、前期II区に継続して下水道污水管渠設工事による事前発掘調査を行うことになった。調査は、平成24年4月23付岩手県教育委員会から回答文書により、箱崎武氏と協議の上、平成24年5月7日から調査に入った。

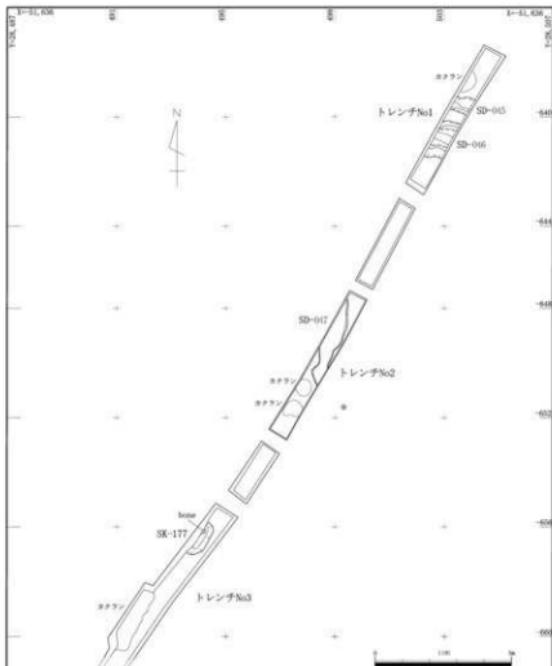
(3) 第28次・第29次（I区～III区）の調査概要

位 置 平成21年度の第28次調査は、町立赤石小学校の南西約150mの地点で、幅0.8m、長さ38mを調査した。平成23年度の第29次調査（I区・II区）では、町立赤石小学校西側の地点で幅15m、長さ30m（I区）、幅15m、長さ18m（II区）を調査した。平成24年度の第29次調査（III区）では、幅15m、長さ49.3mを調査した。遺構検出は、黄褐色シルト層の上面にて実施した。

検出遺構 第28次検出遺構は、SK-177土坑跡1基、SD-045～SD-047溝跡3条である。第29次調査I区・II区の検出遺構は、SK-178～SK-179土坑跡2基、SE-036井戸跡1基、SX-013焼土遺構1基、SD-018溝跡1条、SP-01～SP-11柱穴11口である。第29次調査III区の検出遺構は、SE-037井戸跡1基、SD-048～SD-051溝跡4条、SP-01～SP-12柱穴12口である。

出土遺物 土器破片、かわらけ、木製品、中国産磁器、人骨などが出土した。

3 第28次調査



第4図 比爪館第28次調査区 全体図

(1) 検出遺構、出土遺物

SK-177 土坑跡（第5図）

- 位 置 トレンチ-No.3 北端。 平面形 不整形円形。 重複関係 なし。
規 模 長軸約 1.3m、短軸 0.8m。
埋 土 人為堆積である。A層～H層に大別する。A層～C層は暗褐色土を主体に、しまりは軟である。D層、E層はにぶい黄褐色土が主体である。F層～H層は黄褐色土を主体とする。A層、C層、D層、G層には炭化物を含む。G層から人骨が出土した。
壁の状況 検出面から床面までの深さは約 40cmで、外反しなだらかに立ち上がる。
床の状況 床面はほぼ平坦である。
出土遺物 人骨（頭蓋骨・歯）、炭化物。

SD-045 溝跡（第5図）

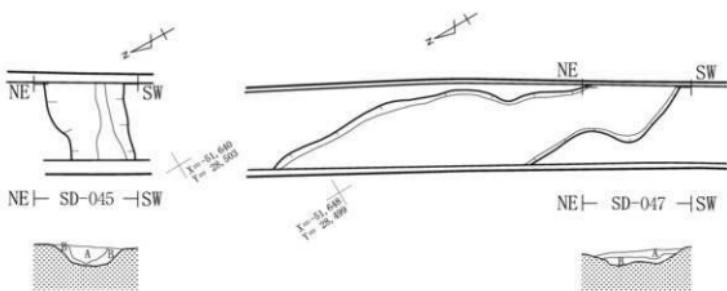
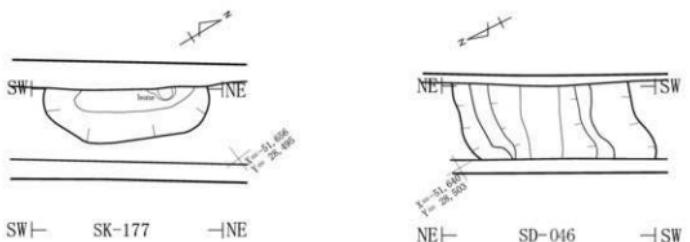
- 位 置 トレンチ-No.1 中央。 平面形 不明。 重複関係 なし。
規 模 幅約 0.5m～0.7m、深さ約 0.15m、長さは不明。
埋 土 自然堆積である。A層～B層に大別する。A層は黒褐色土を主体にしまりは軟である。B層は暗褐色土を主体にしまりは軟である。A層、B層には炭化物を含む。暗褐色土を主体にしまりは軟である。A層には、炭化物を含み、B層には、少穢を含む。B層から土器片が出土した。
出土遺物 土器片、炭化物。

SD-046 溝跡（第5図、第6図）

- 位 置 トレンチ-No.1 南側。 平面形 不明。 重複関係 なし。
規 模 幅約 1.5m、深さ約 0.44m、長さは不明。
埋 土 自然堆積である。A層～E層に大別する。C層は2層に細分する。A層～C層は黒褐色土を主体にしまりは軟である。D層は灰黃褐色土を主体にしまりは軟である。E層は暗褐色土を主体にしまりは軟である。A層、C層には、炭化物を含み、B層、E層には、少穢を含む。B層から土器片が出土した。
出土遺物 土師器坏、炭化物。

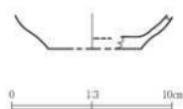
SD-047 溝跡（第5図）

- 位 置 トレンチ-No.2 中央。 平面形 不明。 重複関係 なし。
規 模 幅約 0.8m、深さ約 0.12m、長さは不明。
埋 土 自然堆積である。A層、B層に大別する。A層は黒褐色土を主体にしまりは軟で炭化物を含む。B層は暗褐色土を主体に粘りは強で炭化物を含む。
出土遺物 炭化物。



0 L=97.800
(1:40) 2m

第5図 SK-177 土坑跡、SD-045～SD-047 土坑跡



第6図 第28次調査 SD-046 溝跡出土遺物

SK-177 土坑跡

A 層	暗褐色土。炭化物若干混入。軟。
B 層	暗褐色土。黄褐色土地山土粒若干混入。軟。
C 層	暗褐色土。炭化物若干混入。軟。
D 層	にぶい黄褐色土。黄褐色地山土粒、炭化物、炭化材若干混入。軟。
E 層	C層土に炭化粒等含ます。
F 層	にぶい黄褐色土。骨、炭化材混入。
G 層	暗褐色土。地山土粒混入。軟

SD-045 溝跡

A 層	黒褐色土。炭化物、炭化材混入。軟。
B 層	暗褐色土。炭化物、黄褐色地山土小ブロック状に含む。軟。

SD-046 溝跡

A 層	黒褐色土。軟。
B 層	黒褐色土小礫若干混入。土器、炭化物混入。
C 層	黒褐色土。木根、黄褐色土ブロック状に含む。
C1 層	C層土に黄褐色地山土粒含む。
D 層	灰黃褐色土。黄褐色地山土小ブロック状に含む。軟。
E 層	暗褐色土。小礫若干混入。

SD-047 溝跡

A 層	暗褐色土。木根若干混入。
B 層	暗褐色土に木根若干混入。粘性あり。

表3 第28次調査 各遺構の埋土注記表

(2) 調査のまとめ

今回の調査では、土坑跡1基、溝跡3条を確認し、土師器細片、人骨が出土した。

1) 土坑跡

SK-177 土坑跡は、トレンチ No3 より検出され、西半分は調査区外であった。G 層から出土した人骨は、頭蓋骨部分と歯である。位置は、土坑内上部（北部）に位置している。埋納状況等詳細は不明であるが、墓壙跡と思われる。

2) 溝跡

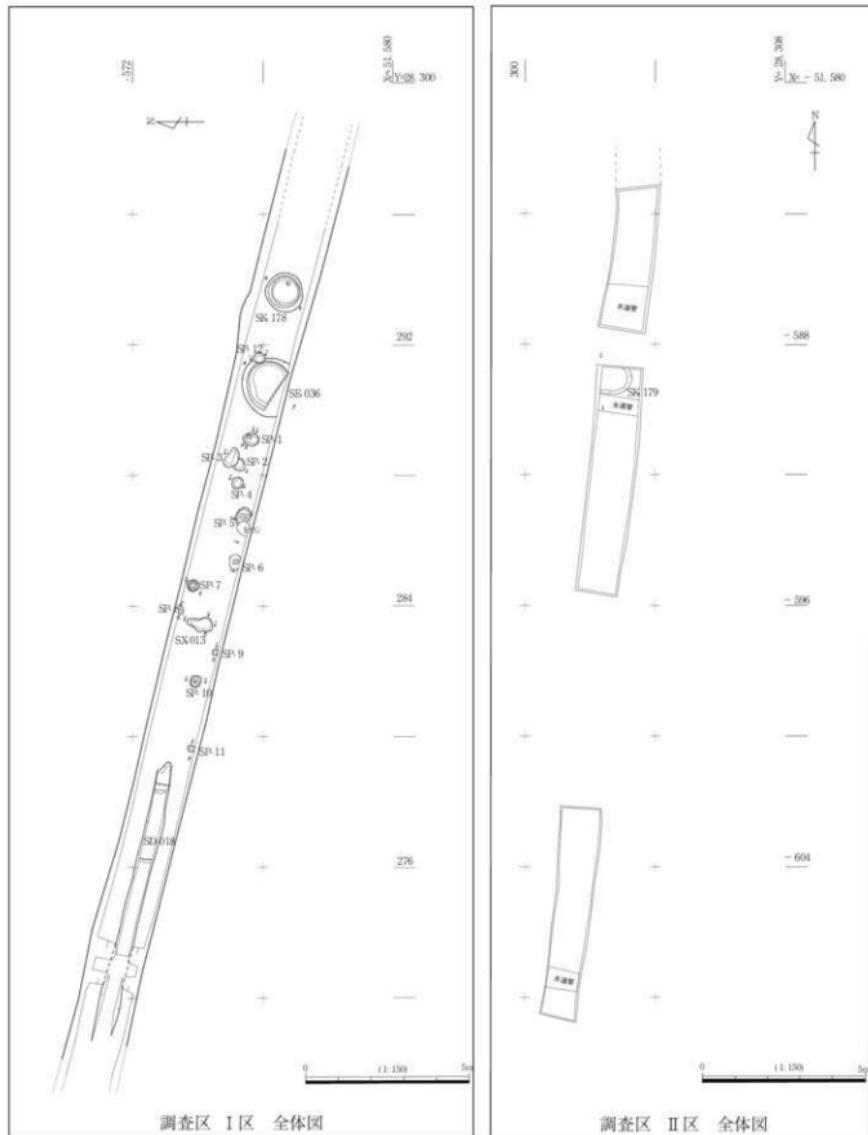
溝跡は3条確認され、SD-046 溝跡以外は後世による削平が著しく非常に浅い溝であった。調査範囲が極小であり、3条の溝跡はいずれも東西に延びていたため、用途等詳細については不明である。また、溝跡より2点の土師器坏の小破片（10世紀）が出土したが流れ込みと思われ、実測可能な土師器の坏は1点のみであった。

3) まとめ

比爪館跡は、奥州藤原氏の一族比爪氏の居館跡として周知の遺跡である。今回の調査では、比爪氏との関連を推測出来るような遺構・遺物等は確認されなかったが、墓壙跡が1基確認された。比爪館跡内発掘調査は、今まで28次の調査が行われているが、墓壙跡の確認は今次調査が初めてである。調査区を含む比爪館跡南東区域（五郎沼北岸）には、大莊巣寺が存在していたと伝えられており、隣接地には、箱清水石室都婆群（中世の石碑群）が存在している。大莊巣寺は、創建年代は不明であるが近世初頭に盛岡市へ移転されている。一説には、比爪氏が創建したとの伝承も残る。

ただし、今回の調査区は範囲が狭く、検出した墓壙跡は1基のみであるため、大莊巣寺に関連あるものとは断定できない。今後の周辺区域の調査に委ねることとする。

4 第29次調査 I区・II区



第7図 比爪館第29次調査 I区・II区 全体図

(1) 検出遺構

I 区 SK-178 土坑跡（第8図）

位 置 調査区東側。 平面形 不整円形。 重複関係 なし。

規 模 長軸上端 1.22m、軸上端 1.16m、長軸下端 0.77m、短軸下端 0.7m、深さ 0.75m。

掘 込 面 削平。 検出面 黄褐色土シルト層上面。

壁の状態 外傾して立ち上がる。 底面 平坦で、西側に直径 0.14 m の小ピットをもつ。

埋 土 人為堆積と自然堆積で、A 層～E 層に大別される。A 層、C 層、E 層は 2 層に細分、B 層は 3 層に細分される。A 層～C 層は黒色土～黒褐色土を主体とし、かわらけ片、炭化物を多く含む。A2 層、B1 層から中国産磁器片が出土した。D 層、E 層は、灰白色土（粘土質）で、やや水分を含む。

出土遺物 かわらけ、中国産磁器片（2点）、炭化物など。

I 区 SE-036 井戸跡（第8図）

位 置 調査区東側。 平面形 不整円形。 重複関係 SP-12 に切られる。

規 模 長軸上端 1.81m 以上・短軸上端 1.19m 以上、長軸下端 1.14m 以上・短軸下端 0.85m 以上、深さ 1.14m。

掘 込 面 削平。 検出面 黄褐色土シルト層上面。

壁の状態 直壁に外傾して立ち上がる。 底面 ほぼ平坦。

埋 土 人為堆積と自然堆積で、A～J 層に大別され、さらに、A 層～C 層、E 層、H 層、I 層、J 層は 2 層に細分される。A 層～I 層は、黒褐色土～暗褐色土を主体とし、土器小片と木製品と炭化物などを含む。J 層は、オリーブ灰色土（地山がグライ化）に水分を多く含み、泥状の層で、かわらけ、木片、木製品、炭化物を多く含む。

出土遺物 かわらけ、木片、木製品、炭化物など。

I 区 SX-013 焼土遺構跡（第8図）

位 置 調査区中央。 平面形 不整梢円形。 重複関係 なし。

規 模 長軸上端 0.79m、短軸上端 0.29m、長軸下端 0.61m、短軸下端 0.32m、深さ 0.08m。

掘 込 面 削平。 検出面 黄褐色土シルト層上面。

壁の状態 直に立ち上がる。 底面 南から北に緩やかに下がる。

埋 土 自然堆積で、A～C 層に大別される。A 層～B 層は、焼土の粒～塊を多く含む層で崩壊土ある。C 層は黒色土に焼土の粒～塊（ブロック状）に含む。

出土遺物 なし。

II区 SK-179 土坑跡（第8図）

位置	調査区北側。平面形 不整梢円形。重複関係 なし。
規模	長軸上端 0.95m 以上、短軸上端 0.82m 以上、長軸下端 0.80m 以上、短軸下端 0.70m 以上、深さ 0.74m。
掘込面	削平。検出面 黄褐色土シルト層上面。
壁の状態	直壁である。底面 ほぼ平坦。
埋土	自然堆積で、A～E層に大別される。B層は2層に細分される。A層～C層・E層は、黒褐色土～暗褐色土を主体とし、土器細粒と炭化物を含む。D層は、灰白色土（粘土質）を多く含む。
出土遺物	かわらけ、炭化物など。

SK-178 土坑跡（I区）

A 1 層	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粉状～粒状と炭化物・土器片を少し含む。
A 2 層	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粉状～粒状と炭化物・土器片を多く、中国産磁器を含む。
B 1 層	黒色土を主体とし、にぶい黄褐色土を粒状～塊状と炭化物・土器片・中国産磁器を含む。
B 2 層	黒色土を主体とし、にぶい黄褐色土を粒状～塊状と炭化物・土器片を多く含む。
B 3 層	黒色土を主体とし、にぶい黄褐色土を粒状に含む。
C 層	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粒状と炭化物・土器片を少し含む。
D 層	黒色土を主体とし、黒褐色土を粒状に含み炭化物・土器片を少し含む。
E 層	灰白色土を主体とし、黒褐色土を粒状に含む。粘土質。
F 1 層	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粉状～粒状に含む。土器片を少し含む崩壊土。
F 2 層	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粒状～塊状に含む。土器片を含む崩壊土。

SE-036 戸跡（I区）

A 1 层	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状と炭化物・土器片を含む。
A 2 層	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状と炭化物・土器片を多く含む。
B 1 層	黒色土を主体とし、黄褐色土を粒状と炭化物・土器片を少し含む。
B 2 層	黒色土を主体とし、黄褐色土を粉状～粒状と炭化物を多く含む。
C 1 层	黒褐色土を主体とし、にぶい黄褐色土を粒状～塊状と炭化物を少し含む。
C 2 层	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状と炭化物を少し含む。
D 層	鈍い黄褐色土（ブロック状）を主体とし、黒褐色土を粒状～塊状と炭化物を少し含む。
E 1 层	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粒状と炭化物を少し含む。
E 2 层	黒褐色土を主体とし、にぶい明黄褐色土を粒状と炭化物を少し含む。
F 層	暗褐色土を主体とし、黒褐色土を粒状と炭化物・木片を少し含む。
G 層	黒色土を主体とし、にぶい黄褐色土を粉状～粒状と炭化物・木片を少し含む。
H 1 层	明黄褐色土を主体とし、黒褐色土を粒状に含む。
H 2 层	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粒状～塊状に含む。
I 1 层	黒褐色土を主体とし、にぶい黄褐色土を粒状～塊状に灰黄褐色粘土を多く含む。
I 2 层	黒色土を主体とし、黒褐色土を粒状と木片を少しと水分を多く含む。
J 1 层	黒色土を主体とし、オリーブ灰色土（地山がグライ化）を多く含む。 水分を多く含み、やや泥状の層で、土器細片、木製品、炭化物を多く含む。
J 2 层	黒色土を主体とし、オリーブ灰色土（地山がグライ化）を多く含む。 水分を多く含み、泥状の層で、土器細片、木製品、炭化物を含む。

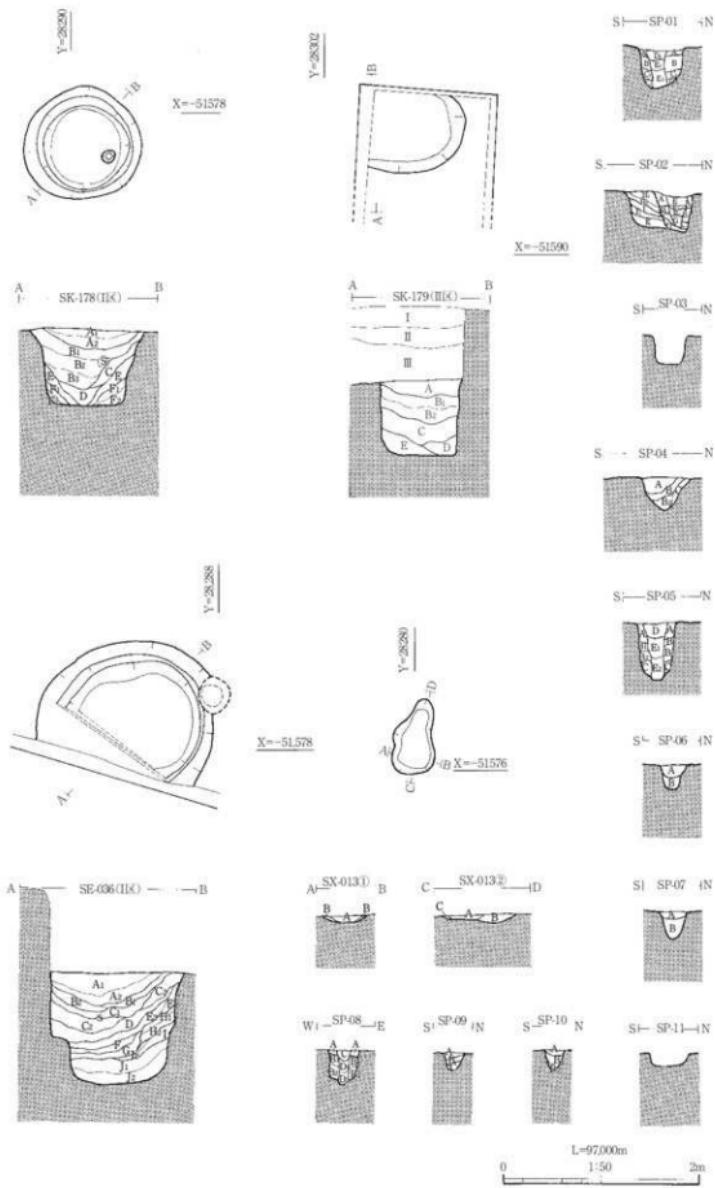
SX-013 烧土構造（I区）

A 層	橙色を主体とし、暗赤橙色を粉状～粒状に含む。焼土粉状～粒状を含む。
B 層	にぶい赤橙色を主体とし、黒色を粉～粒状に含む。焼土粒を含む。
C 層	黒色を主体とし、暗褐色を粉状～粒状に含む。焼土ブロック状に含む。

SK-179 土坑跡（II区）

A 層	暗褐色土を主体とし、明黄褐色土を粉状～粒状に含む。炭化物・土器細粒を少し含む。
B 1 层	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粉状～粒状と炭化物・土器細粒を多く含む。
B 2 层	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粉状～粒状と炭化物・土器細粒を少し含む
C 層	暗褐色土を主体とし、明黄褐色土を粒状と炭化物・土器細粒を少し含む。
D 層	黒褐色土を主体とし、灰白色土を粒状に含む。粘土質。
E 層	暗褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状と炭化物・土器細粒を少し含む。

表4 第29次調査 I区、II区 各遺構の埋土注記表



第8図 SK-178～SK-179 土坑跡、SE-036 井戸跡、SX-013 焼土遺構、SP-01～SP-11 柱穴

(2) 出土遺物

今回の調査では、かわらけ（コンテナ2箱分）、木製品、陶磁器（中国産磁器2点）などが出土し、実測可能な出土遺物38点を図化した。

1) かわらけ（第9図）

SK-178 土坑跡から22点。1～8は小型手づくねで、口径が8.5cm～11.5cmを測る。1の底部に指頭圧痕、3の内底面に爪痕が認められ、6～8は有段を持つ。9～15は大型手づくねで、口径が14.1cm～14.9cmを測る。12、13は有段を持つ。16～22はロクロ成形で、口径が9cm～10cmを測る。いずれも回転糸切無調整である。

SK-179 土坑跡から1点。23は小型手づくねで、口径が10.5cmをはかり、有段を持つ。各層には、かわらけの小破片を多く含む。

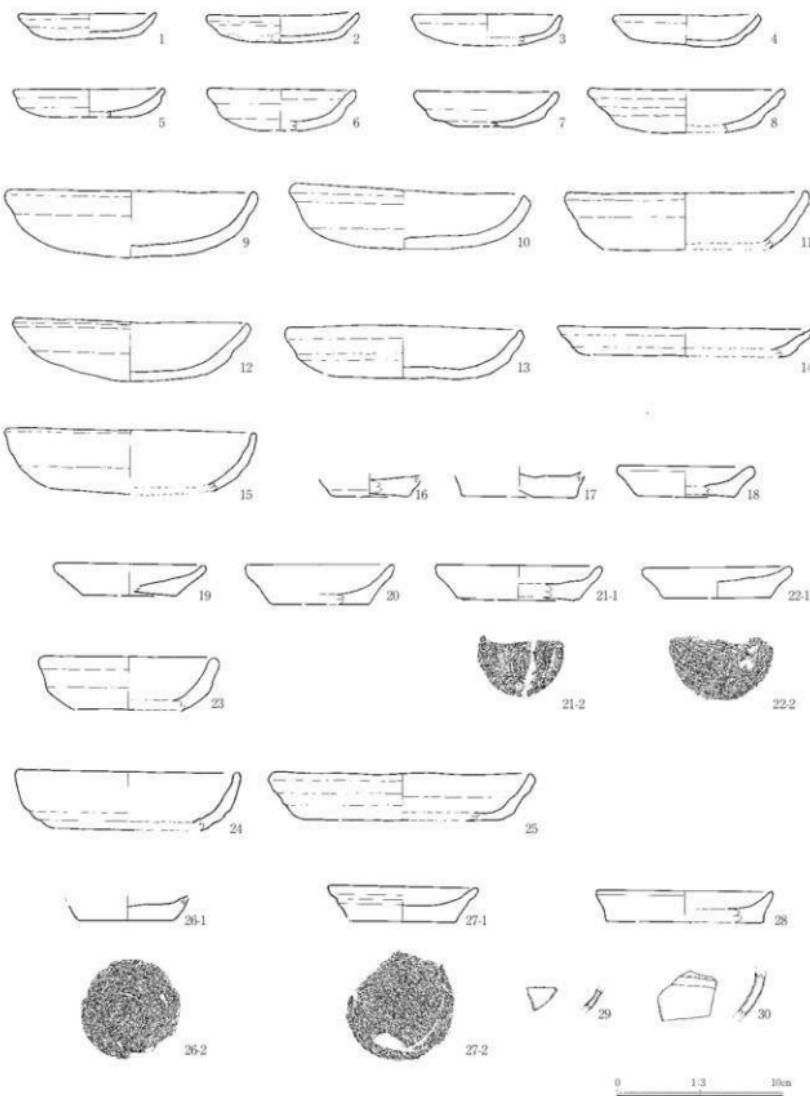
SE-036 井戸跡から5点。24はやや大型の手づくねで、口径が13.5cmをはかる。25は大型手づくねで、口径が14.9cmを測る。26～28はロクロ成形で、口径が9.2cm～10.3cmを測る。26は口縁部を意図的に打ち欠いたと思われる円板状の底部で、底径が8cmをはかる。27は体部下半から底部にかけて黒褐色に変色しており、二次焼成を受けている。いずれも回転糸切無調整である。

2) 磁器（第9図）

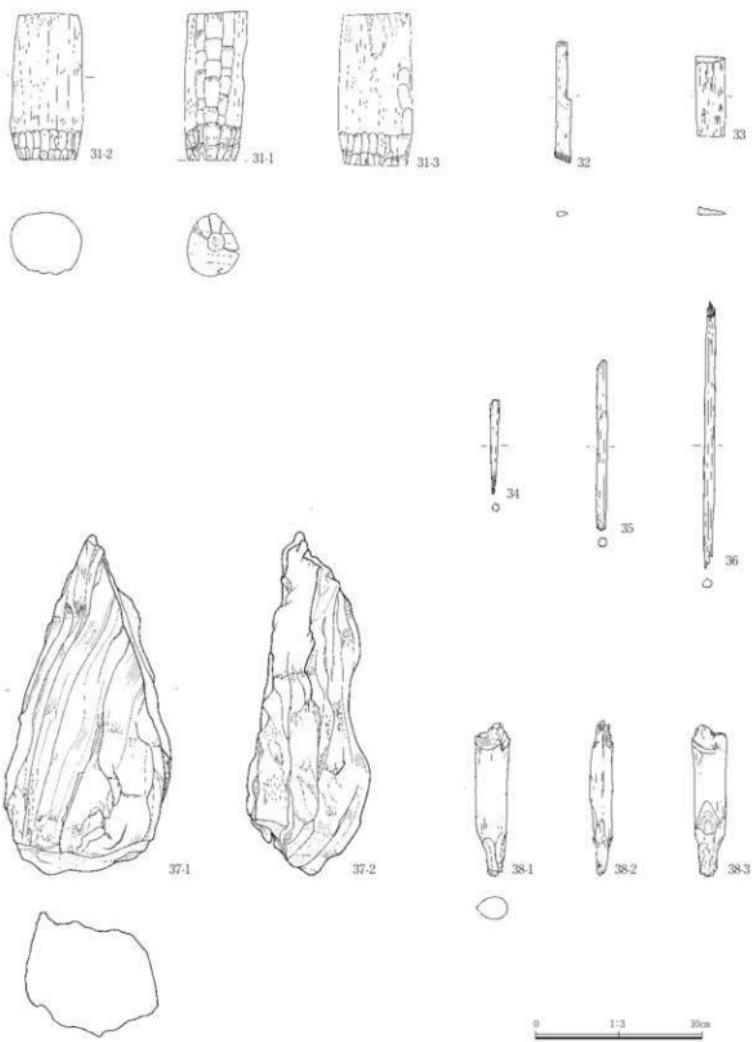
SK-178 土坑跡から、中国産磁器片2点が出土した。29は白磁碗片で長さ14cm、厚さ0.3cmを測り、A2層から出土した。30は白磁四耳壺片で長さ28cm、厚さ0.6cmを測り、B1層から出土した。

3) 木製品（第10図）

SE-036 井戸跡から、8点。31は栓で、下端がしづむ形状に丁寧に削られている。長さ8.9cm、最大径が3.7cmを測り、上面に径が1.2cm、深さ16cmの孔が認められる。32、37、38は、用途不明の加工材である。32は薄くやや幅広の棒状のもので、上端に面取り、下端の表面に焦げが観察された。長さ7.4cm、幅0.6cm、厚さ0.25cmを測る。37は角材で、上端が斜めに切断されている。長さ20.7cm、幅7.8cm、厚さ6.3cmを測る。38は上端が半分斜めに削られ、下端は四方から荒く削られて柄を設けている。長さ9.2cm、幅1.9cmを測る。33は楔で、薄い板片の一面を斜めに削り、三角柱状に仕上げたものである。長さ4.2cm、厚さ0.5cmを測る。34～36は箸である。34は長さ5.7cm、径が0.4cm、35は長さ10.3cm、径が0.5cm、36は長さ16.2cm、径が0.6cmを測る。いずれも完品ではないが、六角柱状を呈す。



第9図 SK-178・SK-179 土坑跡 SE-036 井戸跡 出土遺物



第10図 SE-036 井戸跡 出土遺物

1) かわらけ

番号	遺構名	出土位置	成形	法量(cm)			残存率(%)	備考
				口径	底径	器高		
1	SK-178	E 2 層	小型手づくね	8.5	5.5	15	50	底部に指頭圧痕が認められる。
2	SK-178	E 2 層	小型手づくね	9.1	5.3	19	70	
3	SK-178	A 2 層	小型手づくね	8.8	6.9	19	30	内底面に爪痕が認められる。
4	SK-178	A 2 層	小型手づくね	9.0	6.0	20	70	
5	SK-178	E 2 層	小型手づくね	8.9	6.0	27	50	
6	SK-178	A 1 層	小型手づくね	8.9	6.0	30	40	有段を持つ。
7	SK-178	A 2 層	小型手づくね	8.4	4.7	21	35	有段を持つ。
8	SK-178	A 2 層	小型手づくね	12.0	6.2	26	30	有段を持つ。
9	SK-178	A 2 層	大型手づくね	15.4	6.0	40	60	
10	SK-178	A 2 層	大型手づくね	14.6	10.0	40	95	
11	SK-178	A 2 層	大型手づくね	14.8	11.4	34	25	
12	SK-178	A 2 層	大型手づくね	14.1	9.1	35	45	有段を持つ。
13	SK-178	A 2 層	大型手づくね	14.2	9.0	31	60	有段を持つ。
14	SK-178	A 2 層	大型手づくね	15.2	12.5	17	35	
15	SK-178	A 1 層	大型手づくね	15.2	13.0	35	25	
16	SK-178	B 1 層	ロクロ	—	4.3	—	50	回転糸切無調整。
17	SK-178	A 2 層	ロクロ	—	6.1	—	45	回転糸切無調整。
18	SK-178	D 層	ロクロ	8.0	5.8	18	35	回転糸切無調整。
19	SK-178	B 1 層	ロクロ	9.0	5.6	21	35	回転糸切無調整。
20	SK-178	E 1 層	ロクロ	9.1	5.8	24	30	回転糸切無調整。
21	SK-178	D 層	ロクロ	9.8	6.8	21	40	回転糸切無調整。
22	SK-178	A 2 層	ロクロ	9.0	6.5	18	50	回転糸切無調整。
23	SK-179	B 2 層	小型手づくね	10.2	5.6	32	40	有段を持つ。
24	SE-036	J 1 層	大型手づくね	13.6	9.0	35	30	
25	SE-036	J 2 層	大型手づくね	15.5	11.1	29	25	
26	SE-036	C 2 層	ロクロ	—	5.7	—	45	回転糸切無調整。
27	SE-036	B 2 層	ロクロ	9.1	6.2	21	45	意図的に打ち欠いた円板状。
28	SE-036	A 1 层	ロクロ	10.5	9.1	1.9	35	回転糸切無調整。
								側面に二次焼成を受けている。

2) 中国産磁器

番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	残存率(%)	備考
29	SK-178	A 2 層	白磁	椀	体	5	
30	SK-178	B 1 層	白磁	壺	体	5	四耳壺。

3) 木製品

番号	遺構名	出土位置	種類	法量(cm)			残存率(%)	備考
				長さ	幅・径	厚さ		
31	SE-036	J 2 層	栓	8.9	3.7	—	100	上面中央に孔が認められる。
32	SE-036	J 1 層	加工材	7.4	0.6	0.3	60	下端に焦げを観察する。
33	SE-036	J 2 層	楔	4.2	1.8	0.5	100	
34	SE-036	J 2 層	箸	5.7	0.4	—	30	
35	SE-036	J 2 層	箸	10.3	0.5	—	50	
36	SE-036	J 2 層	箸	16.2	0.6	—	60	
37	SE-036	J 2 層	加工材	20.7	7.8	6.3	90	
38	SE-036	J 1 層	加工材	9.2	1.9	—	90	

表5 I区 出土遺物一覧表

(3) 調査のまとめ

比爪館跡は、第 28 次調査（平成 21 年度）まで実施して來たが、館跡の西側と思われる区域は、ほとんど調査が行われていなかった。第 29 次調査（I 区・II 区）では、下水道管設置に伴う狭い範囲であるが、館跡の西側の調査を行うことが出来た。しかし、調査面積が限られ全体像を把握する事は、残念ながら出来なかった。今回の調査では、土坑跡、井戸跡、大溝跡、焼土遺構跡、柱穴などの遺構を検出し、かわらけがコンテナ 2 箱分、中国産磁器、木製品などの遺物が出土した。今回検出した遺構の時期は、土坑跡、井戸跡、溝跡等出土遺物の状況からみて、12 世紀後半の所属と考えられる。焼土遺構、柱穴は、出土遺物がなく正確な時期は不明である。

1) I 区 SK-178・II 区 SK-179 土坑跡

土坑跡 2 基を検出した。SK-178・SK-179 の埋土中には多くの手づくねのかわらけが含まれていた。特に SK-178 の A2 層より手づくねのかわらけが重なった状態で出土した。おそらく人為的に廃棄されたものと考えられる。A2 層、B1 層より、中国産白磁の小破片 2 点が流れ込みと思われるが出土している。かわらけと中国産白磁片が同時に出土していることから、奥州藤原氏との交流が盛んな時期であったことが窺える。

2) I 区 SE-036 井戸跡

井戸跡 1 基を検出した。埋土上層部中には多くのかわらけが含まれ、ロクロ成形の割合が高かった。埋土の比較から、今回検出した土坑跡とは、多少の時期差があると考えられる。埋土下層部中からは、木製品、木片、かわらけ小破片が多く含まれ、最下層は地山がグライ化し水分を多く含む泥層で、木製品（箸、楔、栓など）を含む。また、詰石や井戸枠などの構築物はなく、簡素な素掘りの井戸と推測される。

3) I 区 SX-013 焼土遺構

焼土遺構 1 基を検出した。上面は削平され、わずかに浅い皿状の窪みを造る。火床面は固く焼しまり長期にわたり何かを焼いていた可能性が高いが、使用目的は不明である。

4) I 区 SP-01～SP-11 柱穴

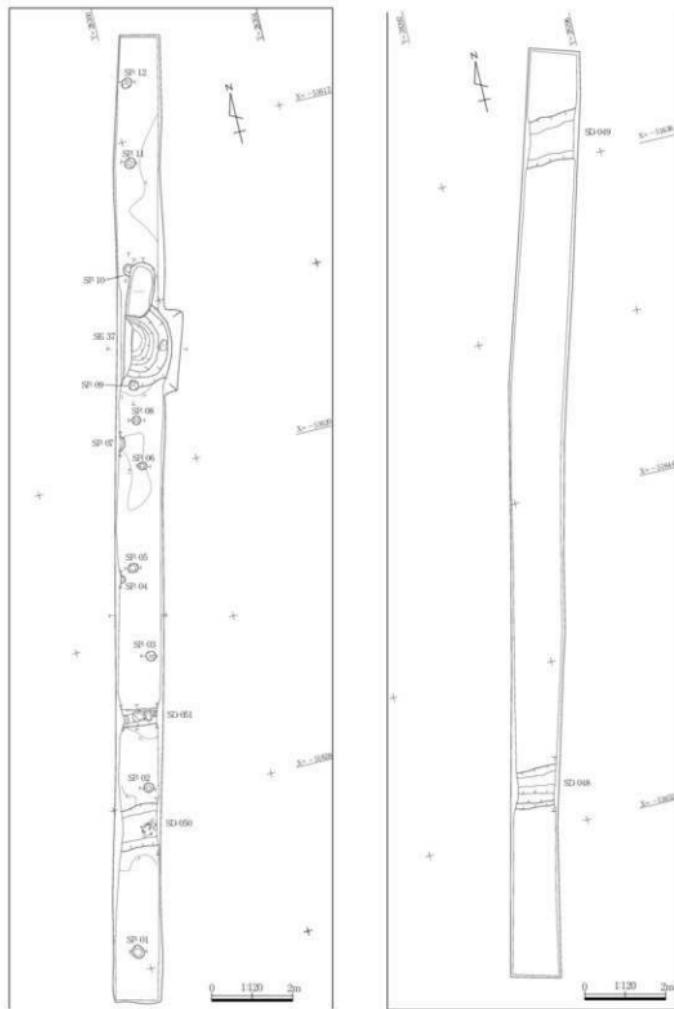
柱穴 11 口を検出した。そのうち、柱痕が確認出来たのは、SP-01、SP-03、SP-06、SP-09 である。今回の調査では、調査面積が狭く、掘立柱建物跡や倉庫跡などの柱穴なのかは判断出来なかった。

5) I 区 SD-018 溝跡（大溝）

大溝の精査は、検出面から約 1.5m 堀り下げた時点から、表土側面が亀裂と内側に膨らみ崩落の恐れが生じた為、安全面を考慮し精査を中止し埋め戻しをした。これまでの西側大溝の調査では、内側の堀り込み面は検出されているが、外側の堀り込み面はいまだ未確認である。今回の調査でも、館跡内側から西に向かってなだらかに落ち込み、水分を多く含む粘土層になるが、溝跡の外側の堀り込み面の壁は確認出来なかった。

今後、館跡を区画する西側大溝跡を確定には、館跡西側を南北に通る町道との間の調査が必要であり、何らかの機会を捉えるまで時間を要する。

5 第29次調査Ⅲ区



第11図 第29次調査Ⅲ区 全体図

(1) 検出遺構

III区 SE-037 井戸跡（第13図）

- 位 置 調査区北側。 平面形 不整円形。 重複関係 SP-09に切られる。
- 規 模 長軸上端 1.82m以上、短軸上端 1.12m以上、長軸下端 0.56m、軸下端 0.24m以上、深さ 1.46m。
- 掘 込 面 削平。 検出面 褐色土シルト層上面。
- 壁の状態 直壁に外傾して立ち上がる。 底面 ほぼ平坦。
- 埋 土 自然堆積と人為堆積で、A層～L層に大別される。A層、H層は3層に細分、B層、E層、L層は2層に細分。A層～C層、F層は黒色土から黒褐色土を主体とし、かわらけ小破片を少量と炭化物を含む。D層は黄褐色土を主体とし、ブロック大を含む。G層は暗褐色土を主体とし、しまりは中である。H層、I層、L層は暗褐色土を主体とし、水分を多く含み粘りは強である。K層はにぶい黄褐色土を主体とし、水分を多く含む。E層、J層は暗褐色土を主体とし、かわらけ小破片を少量と小礫を多く含み、硬くしまり粘りは強である。
- 出土遺物 かわらけ、炭化物、木片など。

III区 SD-048 溝跡（第12図）

- 位 置 調査区南側。 断面形 幅広U字形。 重複関係 なし。
- 規 模 長軸上端 1.20m、短軸上端 0.91m、長軸下端 0.36m、短軸下端 0.24、深さ 0.41m。
- 掘 込 面 削平。 検出面 褐色土シルト層上面。
- 壁の状態 南側に中端をもち上端は外傾して立ち上がる。 底面 ほぼ平坦。
- 埋 土 自然堆積で、A層～C層に大別される。A層は2層に細分。A層、C層は黒褐色土を主体、B層は暗褐色土を主体とし、共にしまりは強で、粘りは中である。
- 出土遺物 なし。

III区 SD-049 溝跡（第12図）

- 位 置 調査区中央。 断面形 幅広U字形。 重複関係 なし。
- 規 模 長軸上端 1.22m、短軸上端 1.12m、長軸下端 0.68m、短軸下端 0.65m、深さ 0.24m。
- 掘 込 面 削平。 検出面 褐色土シルト層上面。
- 壁の状態 緩やかに外傾して立ち上がる。 底面 ほぼ平坦。
- 埋 土 自然堆積で、A層～B層に大別される。A層は2層に細分。A層は黒褐色土を主体とし A2層より、かわらけ小破片を少量含む。B層は暗褐色土を主体とし、炭化物を少量含む。
- 出土遺物 かわらけ、炭化物など。

Ⅲ区 SD-050 溝跡（第12図）

位置 調査区中央。断面形 幅広U字形。重複関係 なし。

規模 長軸上端 1.04m、短軸上端 0.98m、長軸下端 0.68m、短軸下端 0.62m、深さ 0.27m。

掘込面 削平。検出面 褐色土シルト層上面。

壁の状態 緩やかに外傾して立ち上がる。底面 ほぼ平坦。

埋土 自然堆積で、A層～C層に大別される。B層は2層に細分。A層は黒褐色土を主体とし、かわらけ小破片を少量含む。B層は暗褐色土を主体としB1層からかわらけ小破片を少量と炭化物を含む。B2層からかわらけ小破片と炭化物を多く含む。C層は明黄褐色土（崩壊土）を主体とする。

出土遺物 かわらけ。

Ⅲ区 SD-051 溝跡（第12図）

位置 調査区中央。断面形 箱状。重複関係 なし。

規模 長軸上端 0.44m、短軸上端 0.38m、長軸下端 0.26m、短軸下端 0.14m、深さ 0.42m～0.24m。

掘込面 削平。検出面 褐色土シルト層上面。

壁の状態 直壁に立ち上がる。底面 凹凸（柱穴痕多）。

埋土 人為堆積で、A層～C層に大別される。A層、B層は2層に細分。A層は黒褐色土を主体、B層は、暗褐色土を主体とし黄褐色土（ブロック状）を多く含む。

出土遺物 なし。

Ⅲ区 SP-01～SP-12 柱穴群（第13図）

調査区Ⅲ区からSP柱穴12口を検出した。柱痕を確認出来るものは無かった。埋土は黒褐色土と暗褐色土を主体としたものが多く、SP-01～SP-03、SP-06、SP-07、SP-10は単層、SP-05は2層に細分、SP-04、SP-12は3層に細分、SP-09は4層に細分される。また、SP-10、SP-12の埋土中からかわらけ小破片が出土した。

各柱穴の上端と深さは次の通りである。

SP-01	上端 0.27m、深さ 0.07m。	SP-02	上端 0.34m、深さ 0.07m。
SP-03	上端 0.18m、深さ 0.08m。	SP-04	上端 0.33m、深さ 0.27m。
SP-05	上端 0.18m、深さ 0.18m。	SP-06	上端 0.24m、深さ 0.08m。
SP-07	上端 0.18m、深さ 0.09m。	SP-08	上端 0.20m、深さ 0.27m。
SP-09	上端 0.17m、深さ 0.39m。	SP-10	上端 0.28m、深さ 0.23m。
SP-11	上端 0.12m、深さ 0.29m。	SP-12	上端 0.23m、深さ 0.23m。

SE-037 井戸跡

A1 層	黒褐色土を主体とし、粉状～粒状と炭化物・土器小破片を少量含む。
A2 層	黒褐色土を主体とし、暗褐色土を粉状～粒状と炭化物・土器小破片を少量含む。
A3 層	黒褐色土を主体とし、暗褐色土を粉状～粒状と土器小破片を少量含む。
B1 層	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粉状～粒状と炭化物・土器小破片を少量含む。
B2 層	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状と土器小破片を少量含む。
C 層	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粉状～粒状と土器小破片を少量含む。
D 層	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状に含む。(ブロック・大)
E1 層	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粉状～粒状と炭化物を少量含む。
E2 層	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粉状～粒状と炭化物・土器小破片・小礫を少量含む。
F 層	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粉状～粒状と炭化物・土器小破片を少量含む。
G 層	暗褐色土を主体とし、黒褐色土を粉状～粒状に含む。
H1 層	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状と土器小破片を少量含む。
H2 層	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状に含む。
H3 層	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状と炭化物を少量含む。
I 層	黒褐色土を主体とし、暗褐色土を粒状～塊状に少量含む。
J 層	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状と土器小破片・小礫を少量含む。
K 層	にぶい黄褐色土を主体とし、暗褐色土を粒状～塊状と水分を多く含む。(ブロック・大)
L1 層	黒褐色土を主体とし、暗褐色土を粒状～塊状と水分を多く含む。
L2 層	黒褐色土を主体とし、暗褐色土を粒状～塊状に木片と水分を多く含む。

SD-048 溝跡

A1 层	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粉状～粒状に含む。
A2 层	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粉状～粒状に含む。
B 層	暗褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状に含む。
C 層	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状に含む。

SD-049 溝跡

A1 层	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粉状～粒状と炭化物・土器小破片を少量含む。
A2 层	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粉状～粒状に含み硬く絞まる。
B 层	暗褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状に含む。

SD-050 溝跡

A 层	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粉状～粒状に含む。
B1 层	暗褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状と土器小破片を少量含む。
B2 层	暗褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状と炭化物・土器小破片を少量に含む。
C 层	黄褐色土を主体とし、暗褐色土を粉状～粒状に含む。

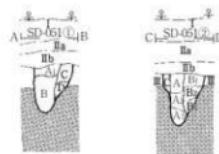
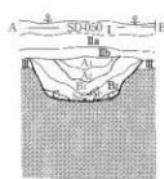
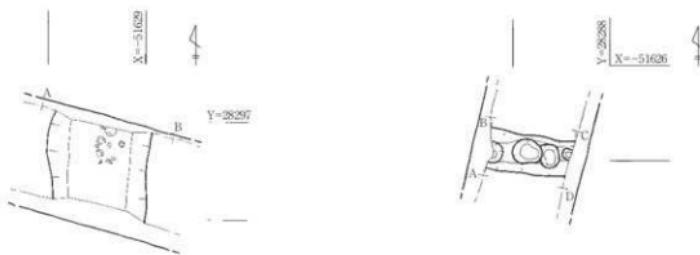
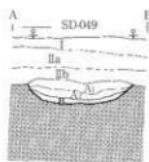
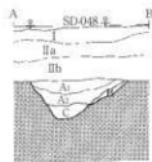
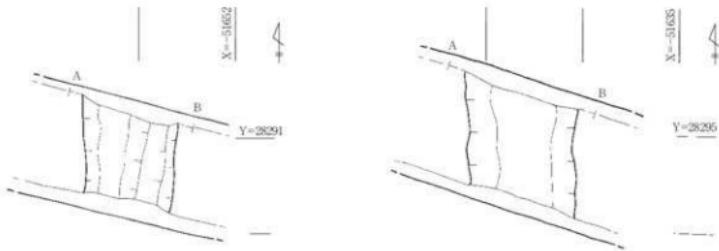
SD-051 溝跡①

A1 层	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粉状～粒状に含み粘り強である。
A2 层	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粒状～塊状に含み粘り強である。
B 层	暗褐色土を主体とし、褐色土を粉状～粒状に含み硬く絞まり、粘り強である。

SD-051 溝跡②

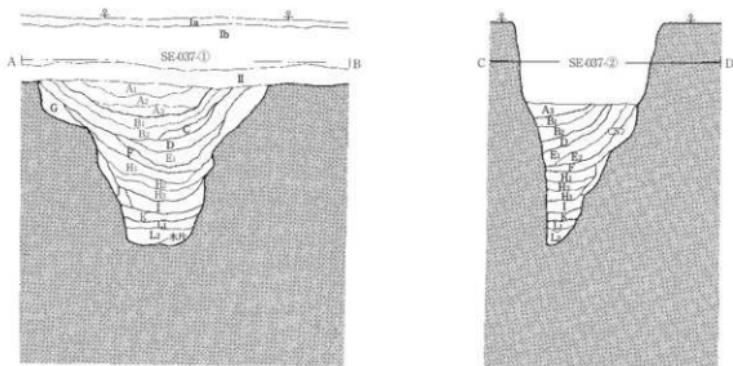
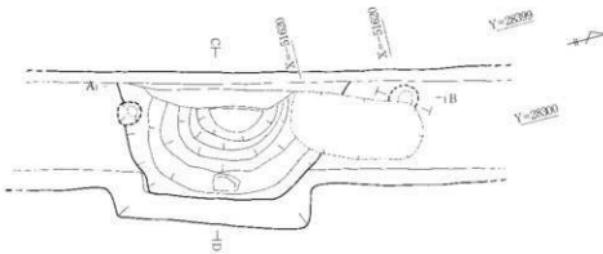
A1 层	黒褐色土を主体とし、黄褐色土を粉状～粒状に含む。
A2 层	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粉状～粒状に含む。
A3 层	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粉状～粒状に含み粘り強である。
B1 层	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粒状～塊状に含み硬く絞まる。(ブロック・中)
B2 层	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粒状～塊状に含み硬く絞まる。(ブロック・大)
B3 层	黒褐色土を主体とし、明黄褐色土を粒状～塊状に含み硬く絞まり炭化物を含む。(ブロック・小)
C 层	黒褐色土を主体とし、褐色土を粉状～粒状に含む。

表 6 各遺構の埋土注記表



L=97,200m
1:50 2m

第12図 SD-048～SD-051溝跡



NW SP-01 SE NW SP-02 SE NW SP-03 SE NW SP-04 SE NW SP-05 SE NW SP-06 SE



SW SP-07 NE NW SP-08 SE SP-09 SW SP-10 NE NW SP-11 SE NW SP-12 SE



L=97.200m
0 1:50 2m

第13図 SE-037 井戸跡、SP-01～SP-12 柱穴

(2) 出土遺物

今回の調査で出土した遺物は、かわらけ（コンテナ1箱分）・木片などである。これらの遺物は、土器の器形に加え出土場所が比爪館跡内ということを総合的に判断すると、12世紀後半のものであると考えられる。今回は、実測可能な出土遺物14点を図化した。

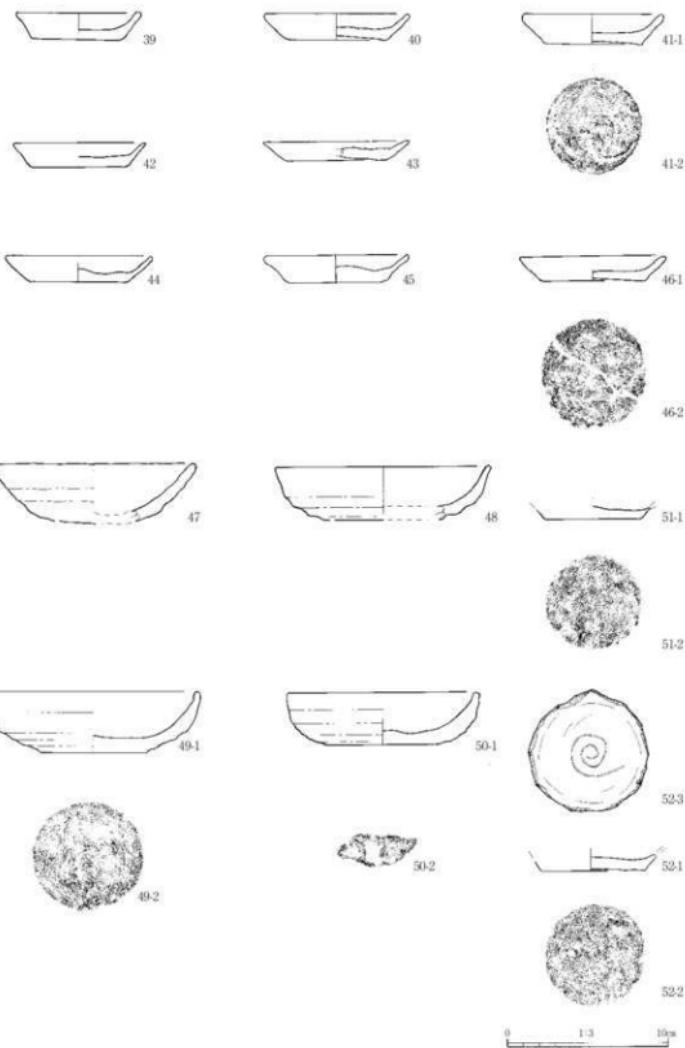
◎ かわらけ（第14図）

SD-049からは1点。47は中型手づくねで、口径が12.4cmを測る。SD-050からは、9点。40、44～46は小型ロクロ成形で、口径が8.8cm～9.0cmを測る。48～50は大型ロクロ成形で、口径が12.9cm～13.3cmを測る。51、52は口縁部を意図的に打ち欠いたと思われる円盤状の底部で、底径が6.0cm～6.1cmを測る。SE-037からは4点。39、41～43は小型ロクロ成形で、口径が7.8cm～8.1cmを測る。

SD-050、SE-037、調査区西面から出土したかわらけは、いずれも回転糸切無調整である。

番号	遺構名	出土位地	成 形	法 量			残存率 (%)	備考
				口径	底径	器高		
39	SE-037	B 2 層	ロクロ	7.8	5.9	1.7	10%	回転糸切無調整。
40	SD-050	C 層	ロクロ	8.8	6.1	1.6	65%	回転糸切無調整。
41	SE-037	B 1 層	ロクロ	8.1	6.0	1.9	98%	回転糸切無調整。
42	SE-037	H 3 層	ロクロ	8.1	6.2	2.0	75%	回転糸切無調整。
43	SE-037	E 2 層	ロクロ	9.0	1.2	6.2	40%	回転糸切無調整。
44	SD-050	B 2 層	ロクロ	9.0	6.6	1.6	90%	回転糸切無調整。
45	SD-050	A 層	ロクロ	9.0	6.0	1.7	80%	回転糸切無調整。
46	SD-050	B 1 層	ロクロ	8.8	5.7	1.7	50%	回転糸切無調整。
47	SD-049	A 1 層	手づくね	12.4	—	3.6	20%	
48	SD-050	B 1 層	ロクロ	13.3	7.0	—	25%	回転糸切無調整。
49	SD-050	B 2 層	ロクロ	12.9	6.6	3.7	98%	回転糸切無調整。
50	SD-050	B 1 層	ロクロ	11.8	3.3	6.9	40%	回転糸切無調整。
51	SD-050	B 1 層	ロクロ	—	6.0	—	—	回転糸切無調整。
52	SD-050	B 1 層	ロクロ	—	6.1	—	—	意図的に欠ち割った円盤状 回転糸切無調整。
								意図的に欠ち割った円盤状

表7 III区 出土遺物一覧表



第14図 Ⅲ区出土遺物

(3) まとめ

比爪館跡は、第29次調査I区・II区（平成23年度）まで調査を実施している。今年度の調査は昨年に引き続き、第29次調査III区（平成24年度）で下水道管設置工事に伴う調査であった。しかし、調査面積が非常に狭く全体像を把握する事は、残念ながら出来なかった。今回の調査では、井戸跡・溝跡・柱穴などを検出し、かわらけがコンテナ1箱分出土した。検出した遺構の時期は、出土遺物の形態と埋土堆積状況から、12世紀後半から末期に属するとものと考えられる。

1) SE-037 井戸跡

井戸跡1基を検出した。埋土上層部に微細かわらけが多く含まれていた。流れ込みと思われる。最下層は泥混土でグライ化し、薄い小木片が少量出土している。その他、井戸枠に使われた板材や石積、敷石等の石材は、確認できなかった。この事から、簡素な素掘りの井戸と推測される。

2) SD-048～SD-051 溝跡

溝跡を4条検出した。SD-048は、埋土上層部に微細かわらけが少量含まれていた。流れ込みと思われる。また、北側に中端を設ける。SD-049は、埋土上層部に微細かわらけが多く含まれていた。これも流れ込みと思われる。SD-050は、埋土上層部に微細かわらけが多く含まれ、最下層からまとまったかわらけが見つかった。意図的に廃棄されたものと思われる。SD-051は、幅0.4mで布堀され、壠堀（不均等）が施されている。堀か柵の可能性が考えられる。

3) SP-01～SP-12 柱穴

柱穴12口を検出した。柱痕が確認出来たものはなかった。今回の調査では、調査面積が狭く、柱穴の性格は判断出来なかった。

また、今回の調査で、堀もしくは柵と考えられる遺構が検出した。この遺構について少し考察して見る。これまで比爪館跡の調査を実施し、堀もしくは柵が検出されたのは、第23次・24次調査で2条確認されているだけである。この2条に関しては本遺跡のはば中心部で、掘立柱建物跡が隣接している事から、堀の可能性が十分考えられる。

しかし、今回検出された遺構は、本遺跡の南西端に近い部分に位置する所で検出され、状況が異なる。堅固な堀もしくは柵と仮定するならば、柱の太さ・柱間の間尺が均等に構築されるものである。SD-051はそれには該当せず、柱の太さも柱間の間尺もまちまちで、簡素な造りで井戸もしくは、小さな物置建物を囲う堀か柵では無いかと推測する。しかし、調査区が幅1.2mのトレンチ状で極めて狭いので、どのような性格をもつ遺構なのかは、今回の調査では断定する事が出来なかった。

比爪館跡の南西端は調査例がなかったが、今回新たな資料が得られた。今後は本遺跡の南端部での広い面積の調査成果を期待する。

4) 出土遺物

調査範囲が幅1.2mと非常に狭い範囲でありながら、今次(第29次I区～III区)の調査においても、かわらけと小片ではあるが中国産磁器が出土した。

今次の調査で出土した小型ろくろかわらけの特徴としては、意図的に口縁部を打ち砕いて廃棄したと見られるような底部のみが多く、調査の段階で遺構との関連などその性格を知る手掛かりを得たかったが、調査した範囲からは結果は見いだせなかった。また、I区・II区から出土した2点の中国産磁器は、いずれも白磁で、1片は白磁壺と思われ同時期の遺構としては稀少な出土となった。

【参考文献】

- | | |
|----------|------------------------------|
| 秋田県教育委員会 | 1995「払田櫛跡 第 98～101 次調査概要」 |
| 平泉町教育委員会 | 1995「志羅山遺跡 第 35 次発掘調査報告書」 |
| 紫波町教育委員会 | 1992「比爪館 第 9 次・10 次発掘調査報告書」 |
| 紫波町教育委員会 | 1992「町内遺跡詳細分布調査報告書 I」 |
| 紫波町教育委員会 | 1999「比爪館 第 23 次・24 次発掘調査報告書」 |

写真図版



調査区全景（南西から）



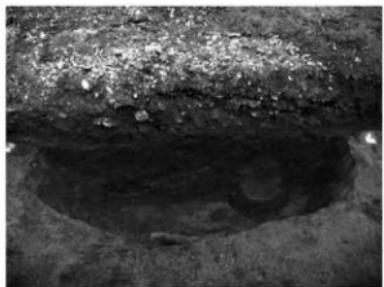
トレンチNo.1 全景（南西から）



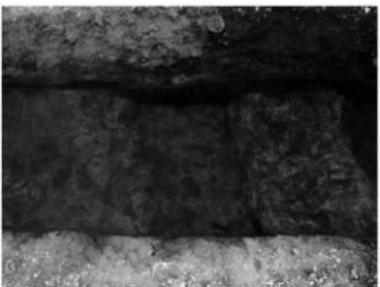
トレンチNo.2 全景（南西から）



トレンチNo.3 全景（北東から）



SK-177 土坑跡全景 (南東から)



SD-045 溝跡全景 (南東から)



SD-046 溝跡全景 (西から)



SD-047 溝跡全景 (西から)



SK-177 土坑跡人骨出土状況 (南東から)



SD-046 出土遺物



I区 調査区全景（東側から）



II区 調査区全景（北側から）



I区 SK-178 土坑跡検出状況



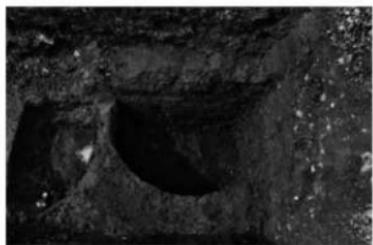
I区 SK-178 土坑跡全景（東側から）



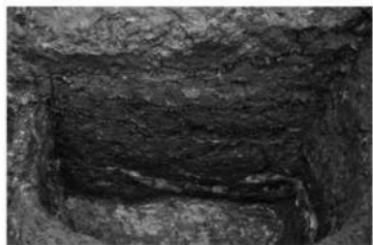
I区 SK-178 土坑跡 断面（上層部）



I区 SK-178 土坑跡 断面（下層部）



II区 SK-179 土坑跡全景（東側から）



II区 SK-179 土坑跡（断面）

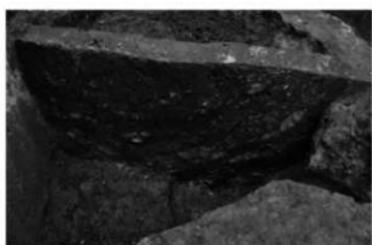
第3図版 第29次調査 I区・II区全景 土坑跡、断面



SE-036 井戸跡検出状況



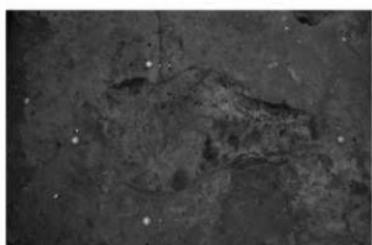
SE-036 井戸跡全景(東側から)



SE-036 井戸跡断面(上層部)



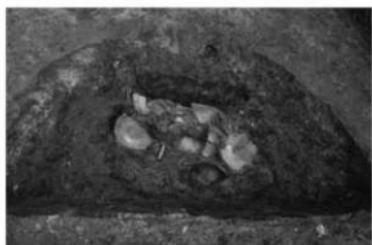
SE-036 井戸跡断面(下層部)



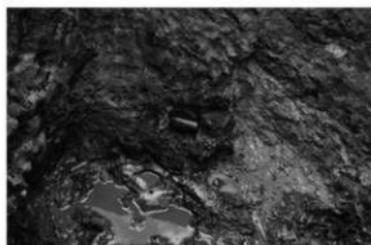
SX-013 焼土遺構全景(東側から)



SX-013 焼土遺構断面



SK-178 土坑跡遺物出土状況



SE-036 遺物出土状況



第29次（Ⅲ区）現況（北から）



第29次（Ⅲ区）全景（南から）



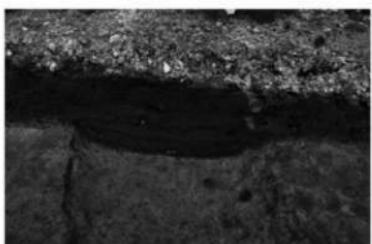
SD-048 溝跡 全景（西から）



SD-048 溝跡 断面（西から）



SD-049 溝跡 全景（西から）



SD-049 溝跡 断面（西から）



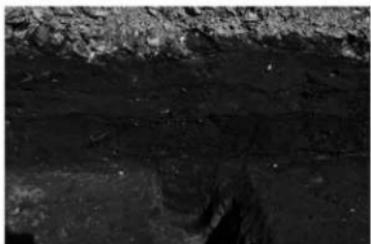
SD-050 溝跡 全景（西から）



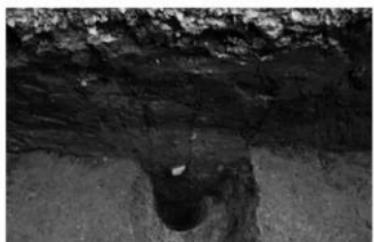
SD-050 溝跡 断面（西から）



SD-051 溝跡全景（西から）



SD-051 溝跡断面 1（西から）



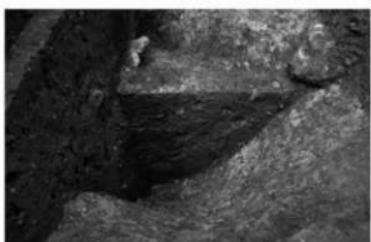
SD-051 溝跡断面 2（東から）



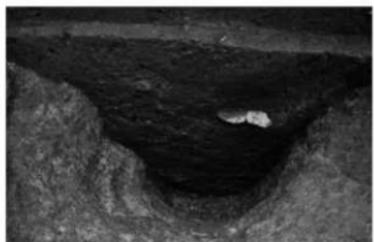
SE-037 井戸跡全景（東から）



SE-037 井戸跡断面 1 上層（南から）



SE-037 井戸跡断面 1 下層（南から）



SE-037 井戸跡断面 2（東から）



SD-050 出土遺物状況（西から）



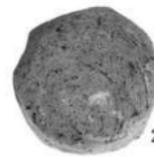
第7図 第29次調査区I区・II区 出土遺物①



24



26-1



26-2



27



28



29



30



31



32



33



34



35



36

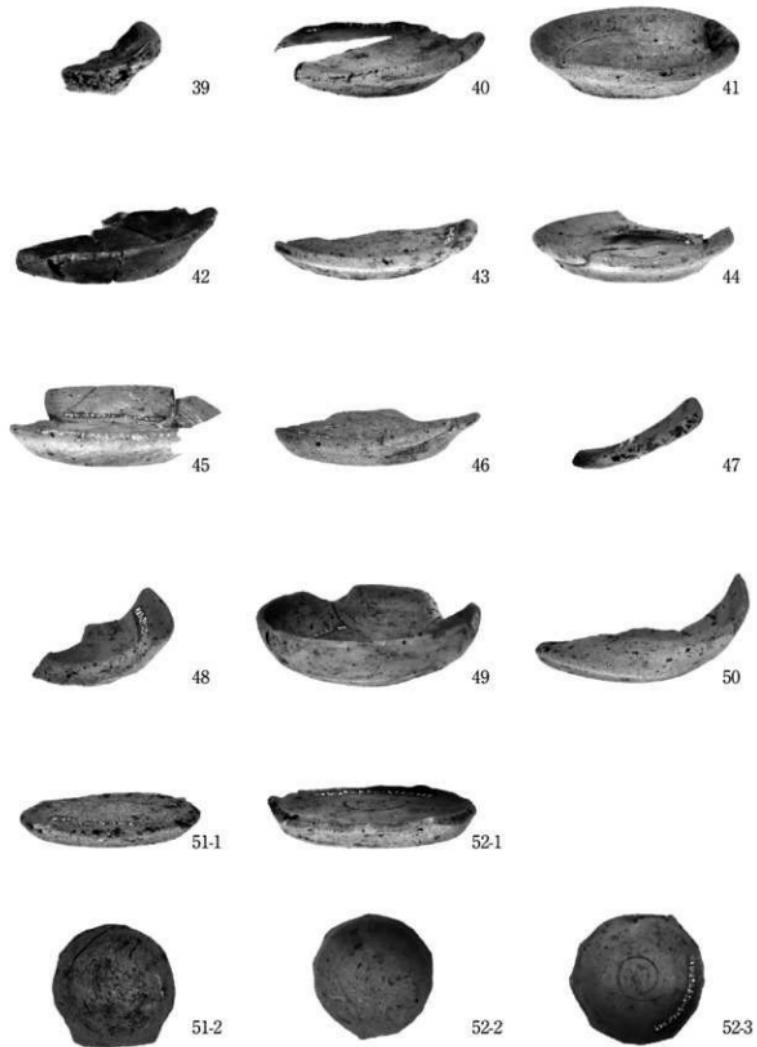


37



38

第8図 第29次調査区I区 出土遺物②



第9図 第29次調査Ⅲ区出土遺物

抄 錄

ふりがな	ひづめだてあと だいにじゅうはちじ・だいにじゅうくじはっくつちょうさほうこくしょ							
書名	比爪館跡 第28次・第29次発掘調査報告書							
副書名								
卷次								
シリーズ名	岩手県紫波町埋蔵文化財調査報告書 2012							
シリーズ番号								
編集者名	花籠博文 鈴木賢治 米川保丈 大畠佳菜子							
編集機関	紫波町教育委員会							
所在地	岩手県紫波郡紫波町日詰字下丸森 24-2							
発刊年月日	平成25年3月							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
比爪館遺跡 第28次	岩手県紫波郡 紫波町南日詰 字箱清水地内	03321	LE77-0087	39° 32' 03"	141° 09' 53"	20090620 ～ 20090830	30.4m ²	公共下水道汚水管渠・公共ます設置工事のため。
第29次 (I・II区)	岩手県紫波郡 紫波町南日詰 字箱清水 540-4	03321	LE77-0087	39° 32' 05"	141° 09' 45"	20111003 ～ 20111019	72.0m ²	公共下水道管及び水道管の設置工事のため。
(III区)						20120507 ～ 20120523	73.95m ²	
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
比爪館遺跡 第28次	集落跡	平安時代 (9・10世紀 頃、近世)	溝跡 土坑墓	土師器壙 人骨				
比爪館遺跡 第29次	館跡	平安時代 (12世紀後 期)	土坑跡 井戸跡 溝跡 柱穴	かわらけ 木製品 陶磁器		吾妻鏡記載 奥州藤原氏閑連遺跡		

比爪館跡

第28次・第29次発掘調査報告書

2013年3月

編集・発行

紫波町教育委員会

〒028-3305 岩手県紫波郡紫波町日詰字下丸森 24-2
TEL.019-672-3362 FAX.019-672-1553

印 刷

永代印刷株式会社

〒020-0811 岩手県盛岡市川目町 23 番 10 号
(盛岡中央工業団地)
TEL.019-623-0111 FAX.019-625-5454
